



園だより 6月

令和7年5月30日

千代田区立麴町幼稚園

園長 木村 恭子

それぞれの“芽生え”

園長 木村恭子

一学期も折り返し地点に入り、どのクラスの子どもたちも、すっかり各保育室の住人の顔になりました。園生活に馴染んだ今だからこそ、自分なりに感じ考え、遊びや生活を展開し、学びを広げる環境を整えます。

～偶然の出会いにも、つながりの芽を育む はな組(3歳児)～

徐々に行動範囲を広げつつあるはな組。ある日、玄関ホールの大きな円柱の周りを、Aさんがぐるぐる回っていました。そこへ、逆方向からBさんがやってきて…柱の反対側でばったり!思わず「キャー!」と声が上がりました。双方すぐにくると向きを変え、またスタート。どこで出会うか、ドキドキ、ワクワク。何度も「キャー!」を繰り返し、「面白い!もっともっと!」を見付けたふたりのように、友達とつながる嬉しさの芽があちこちで開く、はな組です。



～思考も感性も響き合う やま組(4歳児)～

「とうきょう すくわくプロジェクト」では、昨年度に引き続き、木村桂子先生を造形遊び講師にお迎えします。制作やごっこ遊び、ダンス等、「自分はこうしたい。これでいい。」と表現遊びに意欲的なやま組。案の定、今回のデカルコマニーの技法を使う絵の具遊びにも興味津々。偶然できる形の面白さや、混ざり合う色の美しさに魅かれ、何枚も楽しみました。絵の具の量、色、組み合わせを変えながら、自分なりの表現を工夫します。同じものは一つもなく、失敗ありません。友達と見せ合い「面白いね!」の共感も広がって…。じっくりと、次はこうしよう、どうなるだろうと考える体験、そしてそこから生まれた満足感、思考と感性の芽生えと共に、生活全体への自信や期待も高めていくと思います。



～共にゴールを目指す そら組(5歳児)～

5月も半ばに差し掛かると「あこがれの年長になった!」の頑張りパワーもそろそろ充電切れ…?生活安全に黄色信号が点滅するのは多くの5歳児学級が通る道です。

朝の身支度や遊びの片付けはちょっと後回し。学級の集まりも今一つ身が入らない…がそら組でも見えました。そこで担任が投げかけます。「今のそら組どう思う?これからどうする?どうしたい?」自分のこととして捉えてほしい、と願いながら。まず朝は、定刻までに全員身支度完了!を目指し、みんなで生活再生の開始です。「まだお手紙ケース出てないよ～」と声を掛け合う姿に「そら組を素敵にしていくのは自分たち!」の自覚を感じます。これは、そら組持ち前の“遊び発見&実現パワー”(これはやま組の頃から衰えない!)もさらにチャージさせていくことでしょう。進級当初とは違う、しっかり根を張る「そら組の自信」の芽生えです。



年長組は絵の具、クレパス、チョークを用いて“新緑”を描きました

先日、「子どもの5月病」の新聞記事が目にとまりました。小さい子は落ち着きのなさが表れることが多いそうです。ここでも、生活習慣を整える大切さが指摘されていました。今年は弁当給食も始まり、新しい環境に心と体を適応させようと頑張った子どもたち。充電切れにも寄り添いつつ、それぞれの「芽生え」をたくましく伸ばしながら、夏に向かいます。